

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書（その1）

計画体系コード		5-3-1		事業名	北海道新幹線推進事業
担当	市民まちづくり局総合交通計画部新幹線推進室 飯田 TEL211-2275				
全体計画					
事業内容	北海道新幹線は、平成17年春に新青森・新函館間の認可・着工が実現しており、現在、札幌市では、札幌延伸の早期実現を新たな目標として、北海道や期成会など、関係機関と連携を図りながら、誘致活動に取り組んでいるところである。 国においては、平成19年12月に「政府・与党整備新幹線検討委員会」が開催され、作業部会等で札幌延伸を含む整備新幹線の未着工路線の取扱いの検討が進められており、まさに札幌延伸の実現に向けて、以下の取り組みを進めていく。 ①各種広報媒体や各種イベントを活用し、新幹線に関する情報を積極的に発信し市民機運の醸成を図る。 ②活発な中央要望により地元の熱意を国に訴えていく。 ③新幹線による効果が最大限に発揮できるよう、新幹線を見据えた札幌のまちづくりについての検討を進める。 ④認可・着工後、円滑に事業が執行されるよう、関係機関と情報を共有し、諸課題の整理や対応策の検討を進める。		<年度別の事業内容>		
			平成19年度 市民啓発、中央要望、まちづくりの検討 平成20年度 札幌延伸の決定に向け、上記事業をレベルアップ 平成21年度（着工すると仮定）以降 早期開業に向けた要望活動のほか、新幹線効果を最大限に発揮するためのまちづくりについてのPR等を進める		
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容（決算）		平成20年度事業内容（決算）		
	＜市民啓発＞ ・札幌ドームでの新幹線PR（日ハム・楽天戦） ・リンケージアップフェスティバル会場での街頭啓発 ・さっぽろ雪まつり会場での街頭啓発 ・パネル展（ふれあい広場さっぽろ） ・出前講座（7回） ・ホームページの開設 ＜中央要望＞ ・札幌市単独、北海道新幹線関係自治体連絡協議会や期成会との合同（計14回） ＜まちづくり検討＞ ・先進都市調査（鹿児島市、熊本市ほか）		＜市民啓発＞ ・新幹線トーク（貸切の市電、公募市民と市長による懇談） ・札幌ドームでの新幹線PR（日ハム・楽天戦） ・大型ビジョンによる新幹線PR（札幌市内、首都圏） ・さっぽろ雪まつり会場での街頭啓発 ・その他イベント会場での街頭啓発（YOSAKOIほか） ・ホームページによる情報発信 ・出前講座（10回） ＜中央要望＞ ・札幌市単独、北海道新幹線関係自治体連絡協議会や期成会との合同（計12回） ＜まちづくり検討＞ ・先進都市調査（北陸新幹線ほか） ・庁内連絡会議の開催など		
	平成21年度事業内容（予算）		平成22年度事業内容（予算）		
	＜市民啓発＞ ・大型ビジョンによる新幹線PR（札幌市内、首都圏） ・さっぽろ雪まつり会場での街頭啓発 ・その他イベント会場での街頭啓発（YOSAKOIほか） ・ホームページによる情報発信 ・出前講座 ・講演会の開催 ＜中央要望＞ ・札幌市単独、北海道新幹線関係自治体連絡協議会や期成会との合同 ＜まちづくり検討＞ ・先進都市調査（東北新幹線ほか） ・庁内連絡会議の開催 ・庁内勉強会の開催など				

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書（その2）

計画体系コード	5-3-1		事業名	北海道新幹線推進事業		
達成目標の状況						
項 目		18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)
札幌延伸の早期事業化の推進		-	推進	推進	推進	推進
市民・企業等との協働の状況（市民・企業等の参加、支援、協力の状況）						
■市民との連携、市民参加 札幌延伸の早期実現のためには、市民機運の盛り上がりや新幹線に対する理解と協力が不可欠であり、各種広報媒体を活用し、積極的な情報発信を行っている。 ■企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 各種団体（北海道新幹線建設促進期成会及び同札幌圏期成会など）と連携し、誘致活動を進めている。 ■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 平成19年度に出前講座やホームページを開始するなど、より多くの市民への情報発信に努めている。						
評 価（成果）				課 題		
目標：札幌延伸の早期実現 出前講座の実施や札幌ドーム、雪まつり会場での新幹線PRにより、徐々に新幹線に対する市民理解は深まっているものの、十分に新幹線が浸透している状況には至っていない。 このため、今後も、様々な広報媒体やイベントを活用し、新幹線の特徴や利便性、効果を、よりわかりやすく情報発信し、北海道新幹線誘致に向けた市民機運の醸成を図っていきたい。				・札幌延伸の早期実現のため、より一層の市民機運の醸成が必要である。 ・札幌延伸の認可・着工後の円滑な事業執行に向けた準備や、新幹線に期待される効果が最大限に発揮させるための検討が必要である。		
今後の事業の予定・方向						
平成20年12月の政府・与党ワーキンググループの合意により、北海道新幹線については平成21年12月末までに札幌・長万部間の認可が得られるよう所要の検討が進められることとなった。札幌延伸の決定に係る大事な局面を迎え、各種取組のレベルアップを図る必要がある。 札幌延伸が決定された場合、平成22年度以降は、要望活動が減る一方で、円滑な事業執行に向けた調整や、新幹線効果を最大限に発揮するための取組（観光や経済の振興に係る施策検討など）を進める必要がある。						

(単位:千円)

計画体系コード		5-3-1		事業名		北海道新幹線推進事業	
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	11,500	22,500	8,000	8,000	50,000	
	財国・道支出金	0	0	0	0	0	
	財源市債	0	0	0	0	0	
	財源内訳その他	0	0	0	0	0	
	財源内訳一般財源	11,500	22,500	8,000	8,000	50,000	
予算	事業費	11,500	15,000	15,000	—	41,500	
	財国・道支出金	0	0	0		0	
	財源市債	0	0	0		0	
	財源内訳その他	0	0	0		0	
	財源内訳一般財源	11,500	15,000	15,000		41,500	
実績	事業費	9,384	12,552	—	—	21,936	
	財国・道支出金	0	0			0	
	財源市債	0	0			0	
	財源内訳その他	0	0			0	
	財源内訳一般財源	9,384	12,552			21,936	
事業費の進捗率		(H19実績事業費+H20実績事業費+H21予算事業費) / (計画事業費)				73.9%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
《全体》							
[19年度]							
[20年度]							
[21年度]							